

重点施策 4 教育環境条件の整備充実

【施策方針】

- 子どもたちにとってより望ましい教育環境の実現のため、平成30年2月に策定した八幡浜市学校再編整備第二次実施計画に基づき、小・中学校の学校規模の適正化による望ましい児童生徒数による教育効果の向上を図る。
- 科学的な知識、技能及び創意工夫の能力を養うため、理科教育備品の整備を図る。また、引続き、教材、管理備品、学校図書などの学習環境の整備を図るとともに、健康及び環境保全上の効果を増進する。
- 市内の学校施設の多くは築後30数年が経過し、雨漏り、施設の老朽化、内外装の損傷が著しく、早急な対応を迫られている。また、安心・安全な教育現場を確保するため、耐震指標IS値0.6未満の非木造の学校施設の耐震化を推進する。
- 経済的な理由により就学が困難な児童生徒等を支援するため、就学援助事業及び育英事業の充実を図る。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 学校再編整備第二次計画の推進
- ② 学校施設の整備充実
- ③ 教育機器の整備充実
- ④ 施設の耐震化推進
- ⑤ 就学援助事業及び育英事業の充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 学校再編整備第二次計画の推進

ア 全国的に少子化が進む中、八幡浜市も例外でなく園児、児童、生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が進行しており、学級数の減少する学校や複式学級編成になる学校が増えている。また、校舎等の耐震化、施設設備の経年劣化問題などを抱えており、よりよい教育環境の整備・充実を図ることが継続の課題となっている。

イ 八幡浜市学校再編整備第二次実施計画を基に、統廃合対象校となっている真穴中学校、松柏中学校、川上小学校、双岩小学校の各保護者や将来の入学予定の保護者を対象に説明会を実施した。真穴中学校は、平成31年1月に地区協議会の立ち上げを行い、地域住民を交えた統合協議の段階となっている。松柏中学校は、将来の入学予定者である江戸岡小学校及び千丈小学校の保護者への説明会も別途各校で実施している。川上小学校及び双岩小学校については、保護者の理解を得られるよう今後も丁寧な説明を実施していく。

② 学校施設等の整備充実

(小学校) 白浜小学校・日土小学校プール改修工事他 54,202 千円、(中学校) ブロック塀改修工事他 15,097 千円の営繕工事を行った。

③ 教育機器等の整備充実

- ア 理科教育備品の整備（中学校）4,139千円（1/2国庫補助）
- イ 教材・管理備品・学校図書等の整備 16,877千円（前年度 16,952千円）
（小学校）9,992千円 （中学校）6,885千円 （アの理科教育備品を除く）

④ 施設の耐震化推進

白浜小学校東校舎の耐震改修工事 151,573千円を実施した。

⑤ 就学援助事業及び育英事業の充実

ア 就学援助事業

要保護・準要保護児童生徒に対し、学用品、修学旅行等の費用の支給を行った。
また、新入学児童生徒に対して支給している「入学準備金」については、平成29年度新入学児童生徒分から、入学前の1月～3月に支給を行っている。

イ 育英事業

八幡浜市育英会奨学資金の状況

学資金貸与者 10名、貸付額 3,096千円。

返還者 76名、返還額 11,929千円

【事務事業点検評価委員意見】

- 教育環境の耐震化は急務である。ただし、限られた財源であり、より効果的に進めるためには、学校再編を含めて対応すべきであろう。一方、学校は被災した際の避難所としての機能を担っている場であるとともに、いろいろな身体的個性をもった子どもたちが日々生活する場でもある。財政面での負担もあるが、学校環境のバリアフリー化を今後も積極的に図ってほしい。
- 教育機器の充実、子どもたちの学びをより良いものにするために不可欠である。IT関連機器のハード・ソフト両面での支援はもちろんのこと、学校図書館の充実を最優先に取り組んでいただきたい。しかし、どちらも多額の費用が必要となるうえに、IT関連機器はハード・ソフト両面ともに進化が激しいため、何をどのレベルまで整備するかを十分に吟味する必要があると考える。
- 現代社会の大きな課題の一つは、社会人となった若者の多くが抱える奨学金返済が過重負担となっていることであり、これが様々な面で若者の社会生活において悪影響を与えている。家庭の経済的格差がますます大きくなっている現状を踏まえて、貸与型奨学金ではなく給付型奨学金を求める声が、社会全体で拡大していることも容易に頷ける状況である。ふるさと納税の生かし方の一方策として検討するなど、奨学制度を抜本的に再構築する良い機会ではないだろうか。

【自己評価】

- 「八幡浜市学校再編整備第二次実施計画」に基づき、計画に上がっている小・中学校の保護者等に対し説明会を実施した。さまざまなご意見をいただいております。少しでも保護者の不安を払拭するため、懸案事項の解消に努めるとともに、児童生徒の安全・安心な教育環境の整備として、耐震基準値以下である小・中学校の保護者や地域の方に早期に理解が得

られるよう進めていきたい。また、身体的個性をもった子どもたちも、伸び伸びと楽しく成長しあえる環境づくりを進めていきたい。

- 学校施設については、毎年度実施している学校視察時に各校から出される要望を集約し、優先順位の高いものから計画的に実施しているが、全体的な施設の老朽化により修繕が必要とされる箇所が増えているため、限られた予算の中で緊急性のある修繕を先行して対応している現状である。また、厳しい財政状況の中ではあるが、有用な補助金等を活用し、いろいろな身体的個性を持った児童生徒が問題なく学校生活を送るためや、災害時に高齢者等が避難する避難所として、防災担当部局とも協力し学校施設の機能強化を図っていくことも今後の課題である。引き続き安心・安全な教育環境の保持に努めたい。
- 令和2年4月1日から、高等教育無償化制度及び私立高校の授業料実質無償化制度が開始されるなど、国による教育費の支援が拡充されているところである。そのため、市で行っている貸与型奨学金制度のあり方について、今後の情勢や他市町の状況を注視しながら、見直しを含め検討していきたい。